

＜キャリア・ポートフォリオおよびレポートの結果報告＞

1. 中間評価の目的・意義を7月下旬の夏季休暇前ガイダンスで対象学生に説明した。
2. キャリアポートフォリオ（以下、ポートフォリオ）に関する課題：2年間の凝縮ポートフォリオを作成し、それをもとに俯瞰的・客観的に振り返ってレポートを作成する（テーマは各自で決定）
 - 1) 対象学生 79名
 - 2) 内容：学習・学生生活・ボランティア活動（留学等含む課外活動）等、特記したいこと
 - 3) 形式など：A4用紙4枚（1枚1200字×4枚＝4800字）WORD MS明朝体
 - 4) 評価の視点（資料：ループリック参照）
 - ①テーマ設定の適切性、②アカデミックライティングの方法での記述、③考察内容、④文献活用、⑤ポートフォリオの評価 その他 計10項目
 - 5) 提出から教員による学生へのフィードバックまでの経過
 - ①2020年1月10日（金）：学生がポートフォリオ・レポートを提出した。
 - ②助教以上の教員26名が一人あたり学生3名ずつの評価を担当した。
 - ③2020年2月7日：学生にポートフォリオを返却した。
 - ④同2月21日・3月6日：学生間振り返り、自己評価結果のフィードバックを行った。
 - ⑥2020年3月10日：教員意見交換会（評価結果の共有と課題の検討）を実施した。
 - ⑦同4月8日までに各教員が担当学生と個別に面談し、教員からの評価をフィードバックした。

3. 結果

学生の自己評価は、レポートが30点満点で平均19.6点、教員による評価では平均18.4点で、教員評価がやや低かった。項目別では、「引用文献とリスト」、「引用の方法」の点数が低いという傾向は同様であった。この結果より、学生のライティング能力としては、文献を根拠にした文章の記述方法について、理解が不十分であることがわかった。また学生の自己評価に対し教員評価は個人差が大きく、最低点は7点、最高点は29点であった。教員によっても評価基準の解釈に差異があったため、基準を見直し共通理解する必要性が示唆された。

次に学生間の振り返り及び教員の意見交換会を行った結果として、学生にはポートフォリオをまとめるにあたって“させられ感”があり継続できていないこと、ポートフォリオとレポート作成とが繋がっていない学生もいた。教員からは、改めて何のためにポートフォリオ・レポートを書くのかという意味を伝えること、継続を意識・自覚できるような前向きなフィードバックをすることが確認された。

本年度は、学生の間接評価の初年度であり、試行したことは評価できるが課題も明らかになった。次年度は、上記についても事前に検討し、実施していきたい。

表1 学生の自己評価と教員評価

	テーマ	ルール	序論	本論 (主張)	本文 (論理)	本論 (独創)	結論	引用 文献	引用 方法	パラグ ラフ	合計点	ポート フォリオ
学生	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2	1.4	1.6	1.9	19.6	2.0
教員	2	2.02	2	2.02	2.1	2.1	2.1	1.6	1.6	2.0	18.46	1.96